



皇學館 学園報 第43号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市桶部町138
【高校】〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

●今号の注目記事

- 1面 平成24年度 学位記・修了証書授与式を挙行
- 2面 卒業生随想
- 3面 高中で卒業式
- 4面 博士論文の口頭試問を公開
- 5面 県社協と協定締結 社会福祉学部 「フク福フェスタ」を開催
- 6面 京都フィールドワーク、スキー研修 ほか
- 7面 教職員人事
- 8面 卒業記念ミュージカルを開催
- Kらいふ(全学一体) 退任によせて ほか



厳かな雰囲気の中、執り行われた卒業式。答辞は今年、最終年度となった社会福祉学部の信田美奈さんが務めた



中央広場では後輩や保護者が卒業生を出迎え、一緒に記念写真を撮ったり、花束や色紙を贈る光景が見られた

平成二十四年度 学位記・修了証書授与式 倉田山から六五一名が巣立つ

三月十八日、平成二十四年度学位記・修了証書授与式が記念講堂において厳かに執り行われた。式に臨んだのは大学院、専攻科、学部を合わせた計六五一名。この日、全国的に南風が強まり、「春の嵐」となったが、学生たちは晴れ晴れとした表情で巣立ちの日を迎えた。

精神伝統を培う担い手に

春の風に見舞われた三月十八日、本学記念講堂において卒業式が行われ、学部六〇八名、神道学専攻科二十九名、大学院十四名の計六五一名が思い出深い学舎を後にした。

午前中に外宮参拝、内宮御垣内参拝を行い、清しい面持ちで式に臨んだ学生たち。開始時刻が近づくと会場内のさわつきは自然と静まり、厳かな雰囲気の中、式は始まった。

式では国歌斉唱、令旨奉読に続き、清水潔学長が学位記・修了証書、賞状を授与。式辞で清水学長は昨年創立百三十周年・再興五十周年という記念すべき年を迎えたことに触れ、「先達諸賢の勞苦により大学再興が実現し、『稽古照今』の学風を堅実に継承発展してきた本学の歴史に学びつつ、全学挙げての研鑽と努力を誓ったことでありませぬ」と伝統の重みを顧みながら、「続けて、再興されて半世紀を経た五十一年目の春、新たな本学の歴史

を築く出発の年に、諸君は、この名にし負う皇學館の卒業生となるのです。本学において人間としての道、さらに皇國の道義について学ぶところがあつたはずで、道義の何たるかを学んだ以上、恐れず、これを実践しなければなりません」と強調。そして、東日本大震災を経験した今、日本社会のあり方が問い直されているとして、「こうした時代だからこそ、日本の歴史伝統に立脚した日本人として拠つて立つ基盤を固めねばなりません。その社会基盤、精神伝統を培う担い手としての役割が本学の卒業生には期待されています」と熱い口調で語り、卒業生へのはなむけの言葉とした。

希望を胸に、社会に踏み出す

大宮司賞を受賞した時國典子さんは社会福祉学部最終年度の卒業生となったことについて「寂しい気持ちはあるが、福祉の心は現代日本社会学部が受け継ぎ、つなげていってほしい」と話し、後輩たちに思いを託した。



社会福祉学科の時國さん

教員となる夢をかなえたのは教育学部の総代を務めた里中遥さんだ。卒業記念ミュージカルに携わったことで仲間存在



神道学科の園田さん



教育学部の里中さん

平成24年度 学位記授与式 ●総代 ●各賞受賞者 ●答辞・送辞

博士(文学)	大学院文学研究科博士後期課程神道学専攻 VAN DER VORST GWENDOLINE 大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻 大学院文学研究科博士後期課程国文学専攻	金 泳和 張 文宏
総代	大学院文学研究科修士課程教育学専攻 神道学専攻科 文学部国文学科 社会福祉学部社会福祉学科 教育学部教育学科	赤沢 世紀 岩崎伸一郎 田牧 史子 山口 阿美 里中 遥
恩賜奨学賞	文学部コミュニケーション学科	山本 莉央
大宮司賞	文学部神道学科 社会福祉学部社会福祉学科 教育学部教育学科	浅野 詩穂 時國 典子 平尾まなみ
理事長賞	文学部国文学科	山川 栞
学長賞	文学部国史学科	大鷲 俊太
統理賞	神道学専攻科 文学部神道学科	吉澤 伸穂 角井 愛梨
長谷奨学賞	文学部神道学科 文学部国史学科	園田 恵里 幡鎌沙帆理
答辞	社会福祉学部社会福祉学科	信田 美奈
送辞	文学部神道学科3年(前学友会総務委員長)	東 省利
社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	社会福祉学部社会福祉学科	山口 阿美
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰	社会福祉学部社会福祉学科	時國 典子
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰者	教育学部教育学科	平尾まなみ

腹郁とした花の季節から新緑へ。今年は、卒業式前後の柔らかな桜が印象的だった。春雨にけふる倉田山の息吹は、いつも永遠の時空を思い出させてくれる▼「西行桜」という言葉がある。特に、京都嵯峨の法輪寺ゆかりの桜が知られる。宗教学者の山折哲雄氏は、西行は「空気のよう」に、影のように「薄く」、「求めればは虚空のどこかに自分の旅姿を重ねる。出会いと別れとは、その旅立ちの分岐点である。日本の春は、どこか切なく情動的である▼最近届けられた『朝のよつばに花のように』谷澤永一追悼集『論創社』を爽やかに読んだ。通底するのは「徹底・無私」の精神。顧みて我欲は目標を曇らせる。人文学とはまさに「人間学」であることを痛感する▼前理事長上杉千郷『残懷録』(神社新報社)は渾身の青春譜。その「後記」に「我國の今日の歴史教育は、明治以降はすべて侵略と断定しており、將に亡國の道を歩んでいる」とある。困難に立ち向かった戦時の学生たちの心根を、せめて桜の季節には思い起こしたい。やがて新入生の躍動する季節である。

倉田山 春秋
平成25年 3月31日

卒業生

随想

倉田山で過ごした学生生活を振り返り、今、何を思うのか。未来へ向かい、新たな一歩を踏み出す卒業生の言葉を紹介する。

学んだことを日本のため、世界のために役立てたい

大学院文学研究科修士課程教育学専攻 赤沢 世紀



早いもので大学院に入學してから二年の歳月が流れた。学部も含めると六年間も皇學館大学でお世話になったことになる。私は学部の国史学科から教育学専攻に入學した。大学院生活は入学当初に先生方からいただいた「文学研究科として取りを飾ることになる」という言葉をもって始まった。一年目は学部生の演習に参加し共に切磋琢磨することができた。また、大学院の講義は学部と比べ水準が高く、マンツーマンという贅沢な指導のもとで二年間を過ごしてきた。その中、新研究棟が建設されてより勉学に励むことができる環境をいただいた。

大学院生活で一番大変だったのが修士論文の執筆だ。だが、先生方の指導のもとで自分の力を最大限発揮することができた。この経験は本当に私の宝であり、お世話になった先生方や後輩諸君には感謝してもきれないほどである。東日本大震災の発生から二年が過ぎ、まだまだ混乱が続いている時代に私たちは門出を迎える。しかし、学部・大学院で学んだことを活かして日本のため、世界のために役立てていきたい。

感謝——充実した一年——

神道学専攻 大瀧 徳子



私は外国語大学を出て専攻科に入學した。外国のことを勉強したいと思いついた。自分には日本史の専門的な授業を受けていく中で、史学は「覚える」学問ではなく、「考える」学問であることに気づいた。自分は日本史の授業の中で何を伝えていきたいのかを真剣に考えるようになった。

この一年はとても刺激的だった。様々な経歴をた。しかし、入学後数々の専門的な授業を受けていく中で、史学は「覚える」学問ではなく、「考える」学問であることに気づいた。自分は日本史の授業の中で何を伝えていきたいのかを真剣に考えるようになった。

自分と向き合えた四年間

文学部コミュニケーション学科 樋口 泰子



「自由」というイメージを強く持つて始めた大学生活は、一年生は朝から夕方まで講義で埋まり、

だ国史学の魅力を生徒たちに伝えていくことも、自分自身も日々勉学に励んでいく所存である。

正直高校より大変だった。私自身もとも教員を志望して皇學館大学へ入学したが、卒業後は別の道へと進むことを決めた。四年間でしっかりと自分と向き合えた結果だ。私の所属していたコミュニケーション学科で

は就職課程をとする学生は少ないので、一人で授業を受けることが多かった。初めは心細く不安だったが、慣れてくると周りに感化されず集中でき、今まではなかった自分に必要な環境だと思ふようになった。その後、友人と過ごす時間だす時間も大切にしたい。

ではないか、という後悔が残る。来年度の新生活には、後悔しないように精一杯努力するべきだ、と声を大にして言いたい。

わすれてはいけないもの——それは、感謝。

教育学部教育学科 三枝 玄歩



私は、自分の大学生活に満足しているのだろうか。自分に問いを発して、はつきりとは答えられない。私は、一年生から教育アシスタントなど

この経験から、私は四年生の教育エキスパートや卒業論文、口頭試問に全力で取り組み、納得のいく結果を残すことができた。そして、一年間活動してきた四教ミュージカルにも、悔いを残さないように取り組んだ。公演で子どもたちの笑顔に出会えた瞬間、自分たちの努力が子どもに伝わったことに気付けた。

仲間との時間が私の力に

文学部神道学科 宮澤 知生



四年前、遠く離れた故郷からこの伊勢にやって来た私は、今新たな地へ旅立ちとしていた。この大学生活の中で、どれだけ多くの方々に支えられてきたのだろう。

最後に、何よりもかけがえない仲間達だ。共に学業に励んだ仲間、共にクラブ活動をした仲間、共に学祭に取り組んだ仲間、共に笑いあった仲間、共に卒業していく仲間……。数多くの仲間との時間が絆へと変わるとに感謝の言葉が尽きない。

仲間がいることを忘れずに

文学部国文学科 岡安 香奈



入学してから早四年が経ち、目の前にはもう卒業式が控えている。自身自身の大学生活を思い返してみると、たくさんの壁にぶつかった。入学した頃は、履修登録や専門の授業に戸惑うこともあった。

は教育実習と就職試験を並行していかねばならない時だった。その壁を乗り越えてくれたのは、「仲間」がいたからである。どの壁も独りでは乗り越えられなかったと思う。「仲間」と苦勞を分かち合い、「仲間」と協力し合う。大学で出会った素敵な「仲間」達との繋がりをこれからも大切に、それぞれの夢に向かって羽ばたいていきたいと思う。自分は独りじゃない、「仲間」がいることを忘れずに。



り、これからの私の力となるだろう。私はあと数日で一人の社会人となる。しかし、他人を支えられ、他人を支えて生きていくことに変わりは無い。そのことを学んだ大学生活を心に秘め、人の和の中で立派に生きていきたいと思う。

次に生かす視点が必要

社会福祉学部社会福祉学科 山口 阿美



大学生活の四年間とは「光陰矢の如し」の心境で、楽しく時間が過ぎ去るのがとても速く感じた。この四年間は学業を主とし、実習、サークル、就職活動、国家試験勉強などで毎日が充実していた。そこには常に友人が傍にいてくれ学校生活は笑顔が絶えず活気にあふれ、楽しく日々を過ごす

ことができた。また実習や就職活動において辛く、悩むこともあったが友人の支えや教職員の励ましがあったからこそ最後まであきらめずにチャレンジをし、大きな壁を一つずつ着実に乗り越えることができた。印象深い四年間の出来事としては、障がい者への学習支援のサークル活動があげられる。この活動では、余暇活動や環境について学生オリジナルの授業を提供し、参加者と一緒に楽しみながら学

び、様々な考え方や物の見方に触れることにより、自分自身を成長させることができた。またこの活動を通じて①準備段階、②当日実行、③活動を振り返る、④記録をもとに次にいかすといった過去の現在・未来の時系列的な視点を押さえることの重要性を学んだ。こうした学びと就職課の支援により、第一志望の会社から内定を頂けた。

皇學館大学で過ごした四年間の経験を土台とし、今後社会人として熱意を持ち、周りから信頼されるよう、努力を惜しまず頑張っていきたいと思つ。

三月一日、皇學館大学記念講堂において皇學館高校第四十八回卒業式が執り行われた。晴れやかな面持ちをした三二六名の生徒を前に壇上に立った中村貴史学校長。式辞では梅の花に生徒の将来を重ね合わせながら、「北に面した枝々も開花はま

三二六名が新たな一歩

第四十八回 皇學館高校卒業式

きというのはその時の状況を反映したものにすぎず、個性の象徴といえそうです。人間もまたそうしたものであり、各々の特性を信じて伸びていくことを信じてほしいと思います」と新たな一歩を踏み出す生徒たちに励ましの言葉を送った。

卒業生を代表し答辞を務めた矢野翔大君は「最高の仲間と先生方に出会うことが出来た三年間」と振り返りつつ、清明正直の心をもって生きていくことをなく引き継がれていくよう、在校生に願いを託していた。以下に答辞(抜粋)を紹介する。

よき伝統を新しい世代へ

矢野 翔大

この三年間を振り返ると、「光陰矢の如し」との言葉の通り、随分早く過ぎ去っていったように思



答辞を読む矢野翔大君

安はなくなつていきました。もっとも楽しみだった修学旅行では北方領土の望見と、故郷を失った住民の方々の話を伺うという貴重な機会をいただきました。故郷を失うことは、先祖が必死で築き上げてきた思いが断たれることを意味し、あまりに辛く悲しいものです。私たちは北方領土問題を今後も風化させることなく、解決していくべき問題である

という意識を常に持ち続けなければいけないと痛感しました。三年生は進路決定に向けひたすら努力する日々でした。この過程を通して自らの行く道が明確になり、責任ある大人になる自覚が芽生えたように思います。私はこの三年間で最高の仲間と先生方に出会うことが出来ました。時にはその仲間と衝突することや、また、勉強やクラブ活動で挫折しそうになることもありました。しかし、そのような時、励ましてくれたのは、いつも周りの仲間であり先生方でした。そして、三年間この学校に通わせてくれた両親に心から感謝しま

す。私も卒業生は本日をもって通いなれたこの学びやから新しい地へと別々の道を歩んでまいります。皇學館高等学校はまもなく新入生を迎え、新たな一年をスタートさせます。友だちと過ごした教室は新たな生徒を迎え、再び活気づくでしょう。唯一神明造りが常に変わらぬ姿のまま、しかしいつも新しい姿で存在するように、皇學館高等学校の建学の精神を基盤とし、清明正直の心をもって生きるというよき伝統が常に変換することなく、新しい世代に引き継がれていくよう願っております。

お仕事拝見

消費者被害は他人ごとではない

二〇〇〇年代前半に多発したりコール隠しや食品偽装等は、消費者の生命や生活に大きな影響を及ぼすとして社会問題となりました。これを受けて、平成二十二年に消費者庁が発足し、市町村における消費生活相談窓口の強化を行いました。

その当時、伊勢市においては、各関係機関の協力を得ながら、職員が相談業務を行っていました。しかし、複雑化する相談内容に対応していくには限界があり、平成二十二年十月、資格を持つ専門相談員を配置した伊勢市消費生活センターが設置されました。

消費生活センターでは、消費者と事業者の間にある、情報力、交渉力等の格差を埋めるため、消費生活相談員が相談に応じ、助言や



伊勢市消費生活センター相談員



中村昌弘 商工労政課長 (伊勢市消費生活センター所長)

必要に応じて業者との交渉も行っています。平成二十三年度から、高齢者の消費者被害防止のため、地域包括支援センターと連携し、相談事例をもとにした講話や紙芝居などの啓発活動を行っています。また多重債務相談を受ける中で、小さい頃からの金融教育の必要性を感じ、平成二十四年度からは小学生を対象に金の遣い方について学ぶ金融講座も始めました。大学生であるみなさんにおかれましても、マルチ商法やインターネットでの契約トラブルなど、消費者被害は他人ごとではありません。

伊勢市消費生活センターは、消費生活に関する情報を発信し、地域との連携を生かした身近な相談窓口を目指しています。

時分の花、咲かせよう

第三十二回 皇學館中学校卒業式

皇學館中学校の卒業式が三月十六日、セミナーホールにおいて執り行われ、第三十二期生五十三名がひとつの区切りを迎

えた。式辞に立った中村貴史学校長は、その時でなければ表現できない、花のさかりの美しさを指す「時分の花」という言葉を紹介しながら、「これからの君たち、ここにいる、顔もかたちも個性も異なる五十三名のみんなが、それぞれに美しい、時分の花」を咲かせよう努力していきましょう。心から期待しています」と述べた。

困難は強い絆と自信に

金子 結香

時の流れは速いもので、入学式が昨日のことのように感じられます。となりの席の子に自分から話しかけることが出来ず、新しい環境に馴染めるのにか心配しました。しかし、対面式で先輩方にとっても温かく迎え入れられ、その不安は瞬間に消え去り、これから始まる

中学校生活への期待が徐々に高まってきました。しかし、入学して間もないころ、私の心の中にはある思いが生じはじめていました。それは、この学年はみんなが好き勝手バラバラに動いていて、まとまること出来ないのではないかという思い

でした。宿題を忘れる人がたくさんいて先生に注意を受けたり、物事を決めるときに、皆が好き勝手に自分の思っていることばかり言うて何も決まらなかつたりしたからです。きっとその頃の私たちは「その時その時が楽しければそれでいい」とそんな集団だったのだと思います。でも、今は違います。「自分ひとりのことばかりを優先せず、まわりのことを考えられる仲間のためなら全員で協力できる」とそんな集団だと胸を張って言えます。それは長い年月を共に過ごし、スキー研修や合唱コンクールなどで直面した



卒業生代表の金子結香さん

たくさんの困難と一緒に乗り越えてきたからです。壁を全員で乗り越えることでその困難は強い絆と自信へと変わることを実感しました。こうして仲間と友情を深めあえた三年間は私たちにとても、とても貴重な時間となりました。私たちのチームワークはこの学校の色としてしっかりと残っていると思えます。さあ、旅立ちの時がやってきました。三月の風に想いをのせて、夢のつぼみは未来へと続いてゆきます。仲間との絆、明日への自信を胸に、夢のつぼみが、色鮮やかな大きな花となるよう、これからの高校生活を歩んでいきます。



校長の式辞を真剣な顔で聞く生徒達

皇學館大学大学院

博士論文の口頭試問を公開

二月二十六日、大学院文学研究科国文学専攻博士論文の口頭試問が公開のもと行われた。教育研究活動の向上のため本学では初めて公開されるもので、会場となった五号館五三六教室には大学院生や留学生らが傍聴し、熱心に耳を傾けていた。



初めての公開試問とあって、今後の参考にしたいという留学生や大学院生が傍聴に訪れていた

穏やかながらもピンと張り詰めた空気が漂う中、試問に臨んだのは中国と韓国からの留学生二人。中国出身の張文宏さんは、日本近代文学が専門。河南師範大学の外国語学院日本語学科の准教授を休職し、三重大学を経て本学に四年間留学していた。論文テーマは「佐藤春夫作品と中国古典の比較的研究」。主査を務める半田美永教授と二人の副査の教授からの矢継ぎ早の質問にめめらかな日本語で答え、自然の風景と人間の感情の交歓を大切にしてきた中国の古典的叙情に共鳴した佐藤が、その翻訳・翻案を通していかに自身の文学世界を広げてきたかを明らかにした。

韓国から留学している金泳和さんの論文テーマは「古代日韓両語の対照研究」。「日本書紀」「万葉集」や「三国史記」など、漢字を表記文字として用いてきた両国の古代の史料をひもとく類似性のある語彙を研究。古代における両国間の関わりを考察した。教授陣からは論旨の整合性など厳しい指摘とともに、アドバイスや期待を込めた温かい励ましも。いずれも専門性が高く、「張さんは中国と日本の両方の文献に通じている強みを感じました。日本人が気づかない点にもたくさん触れており、私も教えられました」と半田教授。金さんについても主査の毛利正守教授が「日本で五年間研究して

おり、レベルの高い古代文学の学術誌にも論文を発表しています」と語るなど高く評価された。中国人留学生が近代文学で、韓国人留学生が古代語で本学の博士論文を取得するのは初めて。「皇學館大学は半田先生をはじめ先生や事務員の方々が親切で、穏やかな雰囲気です。貴重な資料も多くて良かったです」と張さん。「韓国では古代の史料が少ないので、古代語を研究するのは日本が良いんです。毛利先生にはほとんど二人から全部教わりました」と金さん。二人とも学位取得後は母国に戻り、研究を続ける。



改めて自分自身の内面を見つめるいい機会に

価値観「基」に将来設計 キャリア支援講座を実施

二年生を対象にしたキャリア支援講座が二月八日、開催された。自身の価値観を再確認することによって仕事選びや人生設計を組み立てる一助にしてほしいと実施された同講座。就職活動が本格化する三年次を前に八十二名の学生が参加し、自分の内面を客観的に見つめる貴重な機会になった。講師を務めたのは中條敦仁助教。講座では「あなたはどういう生き方をしたいですか」などの問いに対して「健康」「仲間」「ゆとり」といった言葉が書かれた六十枚のカードの中から回答を選び出す「カードソート法」が行われ、学生はゲーム感覚で楽しみながら自己分析をしていた。また、若手人材に求められる能力について企業・学生それぞれの立場からの意見をわかりやすくグラフ化して解説。学生は両者の「社会人観」に大きな違いがある

ことに驚いた様子で、就職活動の進め方の参考にしていた。講座を受けた学生からは「自分だけでなく他人の価値観を知ることができ、多様な考え方があることを学んだ」「自分の新たな一面を見つけた」「企業が学生に『主体性』や『コミュニケーション能力』を求めていることがわかりためになった」「ビジネスマナーなど技術的な面も大事だが、仕事に對しての姿勢や人との関わり方など社会人としてもっと本質的なことが重要だと思った」などの感想が寄せられ、今後も開講を望む声が多く聞かれた。

地域活性化のアイデア続々

第五回皇一ীগランプリを開催



年々応募者が増加している同コンテスト。地域活性化に結びつくさまざまなアイデアが寄せられた

恒例の皇學館大学ビジネスフロンティアコンテスト(通称 皇一ীগランプリ)が二月十六日、開催された。昨年の十一月に行われた一次審査(四十三チームが応募)を通過した上位五チームによる公開プレゼンテーション大会である。大学生や高校生のベンチャー精神を掘り起こし、地域活性化につながるビジネスの芽を育てようとした同コンテスト。五回目となる今年も愛知県の大学生が応募するなど新たな動きも見られ、例年以上に盛り上がりを見せた。



地域の課題を解決する糸口にと中西君

プレゼンテーションでは各チームともパワーポイントを使ってわかりやすく事業内容を説明。中には芝居仕立てにするなど見せ方に工夫を凝らすチームもあり、審査員、聴衆ともに真剣に聞き入っていた。選考の結果、優勝したのは三重大学医学部五年生の中西貴大君が提案した「救急医療への医学生派遣事業」だ。近年、救急搬送の受け入れを断る患者が死亡するケースが全国で相次いでいる。中西君は医学生が救

急現場に出向き補助業務をする中で医療従事者の負担を軽減。ひいては、医師不足などによる処置困難の事例をなくすことにつながることを訴えた。準優勝は大橋学園高校一年の女子生徒三名による「みどりのカーテン請負います」プラン。建築会社やリフォーム会社などを通じて家々に無料で緑化サービスを提案するもので、省エネに貢献する点やプレゼンのわかりやすさが高く評価された。

- 三位と伊勢商工会議所会頭賞のダブル受賞を果たしたのは本学現代日本社会学科二年の宮脇隆朋君と内田崇史君。二人は伊勢の伝統工芸である番傘を復活させ、神話をモチーフにしたデザインを施してレンタル・販売するアイデアを発表した。総評を述べた武田経営研究所代表の武田秀一氏は「この事業も地域への情熱が感じられ、本当に僅差の勝負だった。年々、プレゼンの仕方、内容ともレベルが上がっており、より充実した大会になっている」と感想を話した。現代日本社会学部の筒井琢磨教授は「就業力」を鍛える場でもあってほしい」と開催のもう一つの意義を説明。「会社に入り与えられた仕事をするだけが『働く』ことではなく、自ら起業するという選択肢もあることをわかってほしい」と話した。コンテストの結果は以下の通り。

一位 救急医療への医学生派遣事業

中西貴大 三重大学

二位 みどりのカーテン請負います

大橋学園高校 寺本美穂・山田莉花・森詩織

三位 伝統工芸による神話の創造

伊勢商工会議所会頭賞 皇學館大学 宮脇隆朋・内田崇史

伊勢三銀会より寄付金贈呈

教育を通じた地域貢献に役立ててほしいと、(株)第三銀行の取引先で組織する「伊勢三銀会」より、百万円の寄附金が本学に贈呈された。これは、第三銀行が平成二十四年に創立百周年を迎えたことを記念して、地域社会への奉仕という同行の経営理念に沿った「地域社会への貢献」への取り組みとして、伊勢の地に根付き社会に有用な人材の育成をめざす本学の教育活動に活用してほしいと申し出てくださった。

皇學館高校・銃剣道部

日本武道館で表彰



後進の育成にあたりたいと話す中島教諭

銃剣道部は、昭和五十六年の創部以来、活動を続け、高校の銃剣道部としては全国で最も長い歴史を有し、銃剣道の普及振興に貢献することにも、昭和五十八年から全国高校生銃剣道大会に連続出場して最多出場数を記録し、数々の入賞を果たしたほか、国民体育大会にも七度出場して三度入賞するなどの実績により、日本武道館の平成二十五年度開き式・武道始めに際して、日本武道協議会より「武道優良団体」として表彰された。

それから一年間、岐阜国体に出場し、今度こそは絶対に入賞しようと練習に励みました。六月の全国能美大会で団体三位・個人三位、七月のわ



国体に出場した選手たち。右から木下大輔君、長野優斗君、笹山尊君、南端拳君

私たちが銃剣道部は、一昨年とはあまたのところで国体出場権を逃しました。その悔しさをハネに練習を積み、昨年の東海大会では静岡、愛知、岐阜に圧勝し、国体出場権を獲得しました。しかし、山口国体では一回戦で惜敗し、先輩たちが築いた静岡国体六位入賞、新潟国体八位入賞には続きませんでした。

岐阜国体七位入賞して

三年七組 長野 優斗

より充実した地域福祉・人材育成を 県社協と協定締結



調印式で握手を交わす清水潔学長と森下達也会長(右)

互いの知的資源を活用し地域福祉をさらに発展させようと、三重県社会福祉協議会(以下、県社協)と本学は包括連携協定を締結した。県社協が県内の大学と協定を結ぶのは初めて。二月十五日には関係者三十人が出席のもと、調印式が行われた。

地域福祉の発展と福祉人材の育成をめざして結ばれた今回の協定。まず手始めに、(1)専門職教育・養成に関する調査研究(2)生活困窮者の実態調査(3)生活困窮者の実態調査)の二つのプロジェクトに共同で取り組むことが決定された。

そのほか、災害支援や若年無業者に関する調査研究が検討されており、より充実した地域福祉・人材育成に向けた取り組み、地域連携の新たなモデル事業として注目を集めている。

学年の枠を超え、絆を結ぶ

社会福祉学部『フク福フェスタ』を開催

社会福祉学部最後の年を記念して、在学生、卒業生、教職員が一堂に集い交流を図ろうと「フク福フェスタ」が開催された。二月十六日に催された同フェスタにはおよそ二百名が参加。終始にぎやかな雰囲気の中、旧交を温め親睦を深めていた。



トークライブの様子



実行委員長の中條さん

平成二十三年に名張学舎から伊勢学舎へと移転した社会福祉学部。今年最後の社会福祉学部生として入学した十二期生の卒業の年にあたる。そこで、伊勢の地に学生や卒業生、教職員が集い、学年の枠を超えて交流を深めようと「フク福フェスタ」が企画された。

新たな絆、つながりが生まれる始まりの年になれどと考える学生を促す「フク福フェスタ」と思いを語る。準備には一年ほどかかったと言いつつ、「大変だったけど、実行委員のスタッフをはじめ、仕事や育児の合間を縫って手伝ってくれたボランティアを申し出てくれる方がたくさんいて嬉しかった」と同学部が最後の固さを改めて実感した。



友人や恩師との会話も弾み、盛り上がったパーティー会場

吹奏楽部が銀賞受賞

東海アンサンブルコンテスト

皇學館高校吹奏楽部が二月十日に開催された第三十九回東海アンサンブルコンテストで銀賞を受賞した。以下に、部員の感想を掲載する。

課題を見つけ次に活かす

二年四組 大西 希望

私たちが吹奏楽部は、二月十日に三重県文化会館で行われた東海アンサンブルコンテストで銀賞を受賞することができました。十二月から取り組みをはじめ、何度も意見を出し合い、最高の演奏ができるように一人ひとり

が考え練習を積み重ねてきました。時には思い通りにいかず、涙を流すこともありましたが、ともに励み、明るく笑顔を絶やすことなくがんばってきました。大会では、練習の成果を発揮し、満

た。惜しくも結果は金賞に届かず銀賞でしたが、東海大会に出場できたことでこれからの課題をたくさん見つけることができました。最後になりますが、熱心に指導してくださった先生方や私たちのためにいつも支えてくれた部員



賞状を手に喜ぶ部員メンバー。右から柴田紗耶加さん、大西希望さん、宇佐見朱華さん、巽彩果菜さん、松本結衣さん

学びの成果を発揮

京都フィールドワーク

日頃の学習の成果を学外活動において実践しようという行われる「京都フィールドワーク」。毎年、生徒自身が行き先を含めて計画を立て、事前に準備をしたうえで京都の街並みを探訪する校外学習の一つである。今年も二月十四日、十五日の二日間に行われ実施。各班とも古都の文化財に触れ見聞を広めたほか、友人と行動を共にすることで規律を守ることや協力し合う大切さを学ぶ機会になったようだ。以下に引率した先生、生徒たちの感想を紹介する。

人間的に成長

二月十四日、十五日の二日間に行われ京都フィールドワークが実施された。

一日目は天候に恵まれ小春日和となった。二学期から準備してきただけあり、バスの車内ではこれから始まる一泊二日を楽しみに生徒たちの会話が弾んでいる様子だった。予定よりも約三十分早く到着し、平安神宮に参拝した。平安京の面影を伝える極彩色

の社殿は、神宮の神明造とはまた違つ神々しさがあつた。参拝作法は事前練習を後々ほど思のあつたものとなり、旅の安全が予感された。

正式参拝後はこれまでに練りに練ってきたグループ研修である。各クラス六班に分かれ、八坂神社や金閣寺、遠くは清水八幡宮などを見学し、自分たちの力だけでホテルまで帰ってくるという内容だ。我々教員は今か今かと生徒の無事の帰着を願い、待つ



金閣寺をバックに!

二日目は、あいにく小雨の中での研修となったが、級友との仲を深めた生徒たちにとって傘を差す煩わしさなど無いように見えた。

全行程を通して、生徒たちには時間を守ろうという意識が見られ、スムーズな時間運びができた。また、目的の一つである規律を守ることや協力し合うことの大切さを身に

和心溢れる京都に魅了

一年三組六班 野田 向日葵

清水寺からの見晴らしや嵐山で食べたおいしい味付けのうどん……京都はどこも和が満ち溢れていて、素敵な所だと思つた。また、日本の心をとても大切にしている所が

友人と仲を深める

一年九組二班 森田 祐生

班のチームワークが抜群でとてもいい旅になった。二日間感じたことは、人というのはみんなそれぞれ異なった価値観を持っているということ。ホテルでの夜は学校ではしゃべらないメンバーが集まり話をしたので今までの印象がころっと変わった。長く接

皇高NEWS

アジアの子たちに学ぶ

平成二十四年度 建国記念の日講演会

建国記念の日に合わせて、高中が合同で催す恒例の講演会。今年もNPO法人アジアチャイルドサポート代表理事の池間哲郎氏を講師に迎え、「懸命に生きるアジアの人々―日本人こそ学んでほしい―」と題して二月八日に記念講演会が行われた。



「懸命に生きて」と池間さん

会場を埋め尽くした約九百人の生徒を前に池間氏は、映像制作会社経営のかたわら二十年前から取り組んできた井戸掘りや学校建設などの支援活動を紹介。日本では当たり前前に飲めるきれいな水だが、世界には泥水を飲んでいる人

が十億人以上おり、アジアでも多くの子どもが泥水による感染症で亡くなっている現実を伝えた。学校も行政が建ててくれるのは豊かな国だけのこと。貧しい国では地域の大人たちの手にゆだねられており、ボロ小屋のような学校や、学校さえない地域も多い。ところが、そんな地の子ともほ

ど家計のために働きながら懸命に学び、鉛筆も芯が無くなるまで使うという。

一方で、恵まれた環境にながら学ぶ意欲や自信が持てなかつたりする子どもが多い日本。池間さんは「幼いときに、しっかりとがまんすることを身に付けない子どもは伸びません」「もっとも大切なボランティアは、自分が一生懸命に生きること。その方が人生は楽しいよ」と中学生に語りかけた。講演後、中学三年生の金子結香さんは「私たちが当たり前だと思つていたことが世界では全然違つたことに衝撃を受けた。私も一生懸命生きることを考えていきたい」と語るなど、一人ひとりに深い余韻をもたらした。

皇中NEWS

集団行動の大切さを知る

飛騨でスキー研修

岐阜県飛騨市の飛騨数河リゾートにて二月三日から二泊三日の日程で二年生がスキー研修を行った。スキー教室やレクリエーションを通して集団行動の大切さなど様々なことを学んだ生徒たち。以下に、生徒の感想を掲げる。

楽しむことが大事

二年A組 前田 珠野

三日間のスキー研修を通して、友達の大切さや何事にも一生懸命取り組むことの楽し

さを学びました。友達がいなかったらこんなにも楽しめなかつたと思ひます。特にスキー班で行動することが多く、



一生懸命滑りました!

班のみんなとしゃべったり、一緒に滑ったり、難しい滑り方をしてみたりとすごく楽しかったです。「何より楽しむことが大事」と先生の先生もおっしゃっていたので良かったと思います。まだまだ滑りたかったけれど、今度はプライベートでも行ってみたい

札の早取りに歓声

百人一首大会

一月二十三日にセミナーホールで百人一首大会が実施された。新校友会役員によって行われる毎年恒例の新年行事である。クラス対抗では六歌仙にちなんだ六チームに分かれ対戦し二十五首から二十首、個人戦ではクラス代表者が五十首から三十首を競つた。団体戦の総合枚数により優勝クラスが決まる。



読み手の先生の声を聞く生徒達

くじで席が決まり、二十秒の暗記タイムで札の場所を覚える。会場の雰囲気が一気に変わり、選手真剣な表情に観客席も静かになった。読み手の先生の声が響くとすぐに札を取る音や声も響いた。札を取れた嬉しさや取れなかつたと悔しがる様子が窺え、この大会に向けてそれぞれがしっかりと取り組んできた事が感じられた。クラスカードが上がるのと仲間の活躍に観客席から大きな歓声と拍手が沸き起こった。

結果

【総合優勝】三年A組
【準優勝】三年B組
【個人戦優勝】中西亜衣(三年A組) 水谷颯吾(三年B組)
【六歌仙優勝】小町三年A組 業平三年B組 遍照三年A組 喜撰三年B組 黒主三年A組 康秀三年B組

最初は不安もあつたけれど、帰ってくるときに「楽しかった」とか「まだ滑りたい」と思えたことがとても嬉しかった。また、部屋では消灯まで友達とおしゃべりをして、より仲が深まったと思ひます。共同生活をして同じ部屋の友達と協力できたので良かったです。

解散式のとき、安井先生が「二年生はあと二十九日間が終わる」とおっしゃっていました。全然実感がなく、あと一月ほどをしっかりと過ごしたいと思ひました。二年A組としていられるのもあと少しなので、このスキー研修でも距離を縮められたことがとても嬉しかったです。これからスキー研修で学んだことを学校生活に生かしていきたいと思ひます。

教職員人事

()は旧職

大学

退職	平成24年10月31日付 総務部事務嘱託 山崎 直子	教育学部助手 藤村 京子	平成25年3月1日付 学生支援部事務嘱託 畑 杏理
	平成24年11月27日付 文学部教授 本澤 雅史	社会福祉学部教授 宮城洋一郎	平成24年7月1日付 学生支援部長 堀井 史仁
	平成24年12月31日付 社会福祉学部助手 古川 愛梨	神職養成部長 山上 賢一	平成25年1月1日付 学生支援部長 堀井 史仁
	平成25年3月31日付 文学部教授 井後 政晏	学生支援部主任 伊藤 素子	総務部長 水本 昌克
	文学部教授 半田 美永	学生支援部教職アドバイザー(非常勤) 中西 正嗣	総務部記念事業・学術振興部 学生支援部課長補佐 山際 稔
	文学部教授(特別教授) 伴五十嗣郎	財務部技術嘱託 岩本 芳子	学生支援部課長補佐 石橋真由美
		学生支援部事務嘱託 三輪 美帆	法人本部出版部主任 石橋真由美
			(総務部主任)

現代日本社会学部 立志塾を開催

学生に志を立てることの尊さと、その具体的な方法を学んでもらうために始まった立志塾。今回は第六回の模様を紹介する。

第六回 二月六日開催 国際化と日本文化

講師 ● 田尾憲 男先生
本学客員教授 憲法・皇室法研究者
講師 ● ピーター・ゴールズベリ 先生
広島大学名誉教授

本学客員教授の田尾憲男先生と広島大学名誉教授のピーター・ゴールズベリ先生を講師に迎え、第六回立志塾が開催された。



お二人は合気道を通じて親交を深めたという

価値観の相違を理解
ギリシ生まれ。合気道の縁で三十二年前に来日し、とくにグローバル人材教育に不可欠な交渉学を専門に広島大学で教鞭をとられている。合気道の腕前は七段。国際合気道連盟理事長を五期務めるなど多岐にわたり活躍されている。

講演でゴールズベリ先生は、他国の文化とコミュニケーションを深めてゆくには、相手と自分の国の文化をどちらもよく理解することが大切であると力説。それぞれの国の人々の中に組み込まれ

採用

平成25年3月1日付
学生支援部事務嘱託 畑 杏理

兼任

平成24年7月1日
法人本部出版部事務長 総務部総務担当課長 総務部記念事業・学術振興担当課長 水本 昌克

高校

平成24年8月31日付
高等学校教諭 熊崎 由衣

平成24年12月31日付
高等学校教諭 高倉 伸介

平成25年3月31日付
高等学校教諭 左右田敏夫

平成二十四年度 奨学金授与者

学内奨学金授与

給付奨学金	国文学科三年 日野 志保	国史学科三年 志賀 美幸	国史学科三年 東端麻由子
	国史学科三年 山川千亜希	神道学科一年 大谷(さ)すえ	コミュニケーション学科三年 奥野 実希
	教育学科三年 和田 典子	博士前期課程国史学専攻二年 糟屋 正人	国史学科三年 堀田 瑞季
	現代日本社会学科三年 木本 瑞穂	博士後期課程国史学専攻二年 谷戸 佑紀	コミュニケーション学科三年 土口 ふみ
岡田奨学金	コミュニケーション学科四年 山本 莉央	神道学科三年 植田あゆみ	教育学科三年 小藤 美紀
		国文学科三年 上杉真里佳	教育学科三年 西本 紫乃
			現代日本社会学科三年 桑山真梨子
館友会奨学金	神道学科三年 中島 英哉	国文学科三年 上杉真里佳	神道学科二年 馬岡 美紀
	高等学校常勤講師 堅田 憲司	国文学科三年 上杉真里佳	国文学科二年 杉森 亮子
	高等学校常勤講師 松島 一樹	国文学科三年 上杉真里佳	国史学科二年 森 望美
配置換	高等学校常勤講師 松島 一樹	国文学科三年 上杉真里佳	現代日本社会学科三年 柴原つばさ
	学校事務部学校事務室事務嘱託 坂井すみ子	国文学科三年 上杉真里佳	神道学科三年 柴田 明典
	学校事務部長 川口 昭二	国文学科三年 上杉真里佳	博士前期課程神道学専攻二年 岡本 和真
	学生支援部長	国文学科三年 上杉真里佳	

大学・柔道部 北川ひとみさんが四位入賞

東海女子柔道選手権大会

皇后盃全日本女子柔道選手権の予選を兼ねた東海女子柔道選手権大会が三月三日、鈴鹿市立武道館で開催され、本学柔道部から教育学科三年の北川ひとみさん、国文学科三年の南千尋さんが出場した。

愛知、岐阜、三重、静



組手争いをする北川さん(右)

岡の四県から各二名、計八名が参加した同大会。北川さんは「保育実習と重なり、あまり練習時間が持てなかった」と悔やみながらも、四位に入賞する健闘を見せた。その上で、「技をかけるタイミングや相手のうまさなど、力の差を感じたのも事実。今後は走り込みなど自主トレを強化してスタミナをつけたい」と目標を掲げた。

第一試合で助軟骨を損傷した南千尋さんは痛みをこらえて続行。決勝リーグに進むことはできなかったが、「戦い方などとても参考になった」と大

奨学生からの礼状

奨学生に採用された学生の感謝の言葉(抜粋)を紹介する。

此度、先生より皇學館大学へ御寄付頂きました岡田奨学金を拝受することとなり、御礼のお便りを差し上げました次第です。突然の非礼をお許し下さい。

此度は、何よりの御高配を賜りまして誠に有難うございました。このような栄誉を頂戴できるとは思ってもみず、過ぎたる果報を思うと感激に堪えません。今後は少しでもこの栄誉にふさわしい人物になれるよう、より一層の精進を心がけ、研鑽に励んでゆく所存です。

恐縮ながら、現在、取り組んでおりますテーマを申し上げます。私は江戸時代における神宮の御節について研究しています。この研究を深化させることで、江戸時代の人々と神宮との関係や伊勢信仰の広がりや様相などを明らかにしたいと考えています。その一部は御報告としまして拙稿の抜刷を謹呈致します。拙い内容ではあります。御高覧賜れば何よりの幸甚です。

今後とも御指導、御鞭撻のほどを御願い致しますとともに、まずは書中にて謹んで御礼申し上げます。

教員免許状更新講習のご案内

今年も2会場で開講

受講対象の方は、平成26年および27年3月31日に修了確認期限を迎える現職教員等の方です。

受付期間	第1次 6月3日(月)16時～8日(土)15時
	第2次 6月10日(月)16時～12日(水)15時
受講対象者	生年月日
平成26年・27年3月31日現在の年齢	
満35・34歳	昭和53.4.2～昭和55.4.1
満45・44歳	昭和43.4.2～昭和45.4.1
満55・54歳	昭和33.4.2～昭和35.4.1
※講習の内容・お申し込み方法などの詳細は本学HPをご参照ください。	
http://www.kogakkan-u.ac.jp	
会場と開講スケジュール	
伊勢会場 皇學館大学	
必須領域	8月20日(火)・21日(水)
選択領域	8月22日(木)・23日(金)・24日(土)
四日市会場 じばさん三重 (近鉄四日市駅前)	
必須領域	8月20日(火)・21日(水)
選択領域	8月23日(金)・24日(土)・25日(日)
問合せは	学生支援部 教職支援担当 教員免許状更新講習係
	TEL0596-22-6049 FAX0596-21-0541 E-mail kyosyoku@kogakkan-u.ac.jp

聖恩奨学金	コミュニケーション学科二年 松田 明子	社会福祉学科四年 信田 美奈
	国文学科三年 奥野 実希	社会福祉学科四年 山口 阿美
	国史学科三年 堀田 瑞季	教育学科二年 田中 亜湖
	コミュニケーション学科三年 土口 ふみ	教育学科二年 田中 亜湖
	教育学科三年 小藤 美紀	現代日本社会学科二年 柴原つばさ
	教育学科三年 西本 紫乃	
	現代日本社会学科三年 桑山真梨子	
	神道学科二年 馬岡 美紀	
	国文学科二年 杉森 亮子	
	国史学科二年 森 望美	
学外奨学金授与		
神宮特別奨学金	神道学科三年 柴田 明典	博士前期課程国史学専攻二年 宮寄 真由
	博士前期課程神道学専攻二年 岡本 和真	
八坂神社奨学金		

4月 イベント情報(4~6月)

6+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「生駒山における神仏習合」 ●河野訓 文学部教授

13+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 「古事記」を読む(中巻)「開化天皇」 ●白山芳太郎 文学部教授

皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 伊勢の遷宮と心の蘇り―建築ご神宝と遷宮諸祭― 「伊勢神宮とその遷宮」 ●白山芳太郎 文学部教授

5月

11+ 月例文化講座 431教室 現代日本学の課題 ●新田均 現代日本社会学部教授 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 「古事記」を読む(中巻)「崇神天皇」 ●白山芳太郎 文学部教授

皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 伊勢の遷宮と心の蘇り―建築ご神宝と遷宮諸祭― 「新宮づくり」 ●白山芳太郎 文学部教授

18+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座「遷宮シリーズ①」 伊勢神宮と「天衣」伝承―「愚昧記」嘉応元年 二月四日条― ●加茂正典 文学部教授

25+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「伏見稲荷大社における神仏習合」 ●河野訓 文学部教授 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室 伊勢の神宮を語るⅡ―日本文化の源流を考える― 「美し国の悠久の祈り」 ●清水潔 皇學館大学学長

6月

1+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座 日本書紀―神武天皇東征― ●大島信生 文学部教授

8+ 月例文化講座 431教室 日本の医療が変わる ●山路克文 現代日本社会学部教授 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 「古事記」を読む(中巻)「垂仁天皇」 ●白山芳太郎 文学部教授

皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 伊勢の遷宮と心の蘇り―建築ご神宝と遷宮諸祭― 「新調される神宝と装束」 ●白山芳太郎 文学部教授

15+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座「遷宮シリーズ②」 伊勢神宮苦難の時代―神宮式年遷宮の中絶と再興― ●木村徳宏 文学部助教

22+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「西大寺における神仏習合と神仏分離」 ●河野訓 文学部教授

29+ 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野 特別公開講座 古文書を読む―式年遷宮の途絶と女房奉書を読む― ●岡野友彦 文学部教授 神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室 伊勢の神宮を語るⅡ―日本文化の源流を考える― 「悠久の伊勢神宮」 ●荊木美行 史料編纂所教授

- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(0120-106-718)へお願い致します。
●神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(0596-22-6471)へお願い致します。
●その他お問い合わせは、皇學館大学企画部(0596-22-6496)へお願い致します。

編集後記
皇學館大学四年生有志による卒業記念ミュージカルは、今年も盛大でした。公演を見た高校生から「自分たちもやってみたい」「仲間の絆を感じた」という声が多く聞かれました。学生生活の学内外での活躍が、卒業生の皆さんに社会で活躍されていることが、広報スタッフにとっては何よりも嬉しいことです。卒業生が、卒業生として活躍されている姿を見て、私も励まされています。卒業生が、卒業生として活躍されている姿を見て、私も励まされています。

3000名を動員した感動の舞台

教育学部有志が「ピーターパンとフック船長」を熱演



エンタテインメントの中に教育的なメッセージを込め演じられる卒業記念ミュージカルは、子どもだけでなく大人も楽しめる内容となっている

教育学部四年生有志一五三名による卒業記念ミュージカルが二月二十二日に三重県文化会館中ホールで、三月二・三日に本学記念講堂で催された。毎年、開催に向け、約一年をかけて準備される同ミュージカル。今年は二会場あわせておよそ三千名の観客を動員し、感動と興奮に包まれた舞台となった。
キャストが歌う 本格的なミュージカル
今年度の作品は「ピーターパンとフック船長」。わすれてはいけないもの、絵本作家になる夢を...

「年々公演時間が長くなってきているのですが、子どもが集中できるよう今年には九十分以内に収めました。また、これまでは合唱班が担当することが多かったが、より本格的なミュージカルをめざしてキャストが歌うようになり、練習が厳格になりました」と話すのは、実行委員長の鈴木智尋君。同ミュージカルは脚本作りから衣装、音楽まですべて学生たちが担当。準備期間は一年ほど。脚本は仕上がると三回ほど練り直したという。ほとんどの学生がミュージカル初挑戦のなか、ぶつ

身を持って感じた 仲間の大切さ伝える
そうして迎えた本番当日、津市にある三重県文化会館中ホールは立見客が出るほどに。幕が開いて始まったピーターパンとフック船長の物語は子ども向けのわかりやすいストーリーの中にも大人の心を打つ大切なメッセージが込められていた。たとえば、家族のいないピーターパンが一人寂しくしていると、ティンカーベルやネバーランドの住人が「みんな仲間を盛り上げる



子どもたちが参加できる演出で会場を盛り上げる

を考えると、自分の思いも周りにしっかりと伝えることが大切だと学びました」と鈴木君は語る。チームワークも高まった。裏方として舞台を支えた音響・照明班の江尻真彦君は「自分たちががんばればキャストも気持ちよく演技でき、ミュージカルの成功につながっていくんだと強く感じました」と語る。

教師として働くうえで、今回学んだことを生かしていきたいと語る鈴木君



平成25年度 皇學館大学 月例文化講座 聴講料無料

年間テーマ●現代日本の課題
今年度の月例文化講座は現代日本社会学部が担当。社会のさまざまな問題、課題を取り上げ、その解決法をみなさんとともに多彩な観点から探っていきます。

第1回 5/11(土) 教授 新田均
現代日本学の課題
現代日本社会学部は現代日本が直面している諸々の課題に対して、建学の精神を基礎として、主体的、創造的に対処できるリーダー的人材の養成を目指して設立された学部です。それでは、本学の建学の精神を踏まえたならば、現代日本の課題にどのような姿勢で向かい合うことが求められるのでしょうか。それについて、現在、私が考えていることを、いくつかお話ししたいと思います。

第2回 6/8(土) 教授 山路克文
日本の医療が変わる
日本の医療は病院医療・入院医療を中心に発展してきました。しかし、欧米に比べて長い入院日数や高騰し続ける国民医療費などに対処するために、1990年代初頭から病院医療・入院医療を急性期

に特化する政策転換が続けられました。さらに今、日本の医療は「病院医療」から「在宅医療」に大きく変わろうとしております。私たちの暮らしにどのような変化が起きるのでしょうか。みなさんとともに考えてみましょう。

第3回 7/6(土) 准教授 榎本悠孝
ひとごとですか、こころの病気とこころの障害
現代日本社会において「こころの病気(精神疾患)」が大きな課題になっています。その患者数は近年増加し約320万人となり、がんや糖尿病、心筋梗塞、脳卒中とならび5大疾病に数えられるようになりました。しかし、うつ病といった精神疾患の症状や治療法、福祉的支援について国民の理解が進んでおらず、また患者に対する偏見や差別の問題もあります。本講座では、こころの病気を患った人の地域生活を促進する要因と阻害する要因について考えたいと思います。

第4回 9/7(土) 教授 山中優
経済自由主義・マルクス主義・経済ナショナリズム ~その現代日本にとっての意味~
小泉政権下では構造改革路線が進められていました。その構造改革路線の背後にある思想は経済自由主義でしたが、それに対しては、マルクス主義や経済ナショナリズムの立場から重大な異議が唱えられています。そもそも、その三つの経済思想はどのような主張をするものなのか。また、それが現代日本にとって持つ意味とはいかなるものなのか。本講座では、現代日本にとって必要な経済政策について、思想的な観点から考えます。

第5回 10/5(土) 教授 筒井琢磨
社会臨床とまちづくり
現代日本社会学部は現代日本の課題を考えていく上で、実践や体得を伴う実習授業を重視しています。実習授業の一つに、地域社会の抱える課題を的確に捉えて、実際に現場に入り込んで問題解決に臨む場として、「社会臨床実習」という授業があります。学生たちとまちづくり活動に関わってきたことを「臨床」というキーワードを手がかりにして、紹介したいと思います。

第6回 11/16(土) 准教授 藤井恭子
社会情報と人づくり
現代日本社会はさまざまな社会情報であふれています。中には「これは正しいデータなのか」と思えるものもあります。また間違った方法で分析されたため間違った結果を示しているものもあります。それでは正しいデータを正しい方法で分析するとはどのようなことなのでしょう。本講座では現代日本社会学部の「社会情報実習」と「社会調査実習」の実習内容を例に考えていきます。また「社会情報」をキーワードに、現代日本社会学部が社会の求める人材をどのように育成しているのかについても紹介したいと思います。

第7回 12/7(土) 教授 橋本雅之
神話から見る現代社会の課題
神話は、それぞれの国の文化や価値観を表現し伝承されてきたものです。その中には、意外にも現代社会の課題を考える上で重要なヒントが隠されています。この講座では、古事記神話を紹介しながら、現代日本の課題についてお話ししたいと思います。

各日とも
時間●午後2時より 場所●4号館431教室

皇學館学園報



Activity Report of 2012 平成24年度 活動報告

- 1◆ 退任によせて
- 2◆ 平成24年度出版物、記念学術研究事業、表彰一覧
- 3◆ 附置研トピックス
 - 神道研究所 ● 神道博物館 ● 史料編纂所 ● 館史編纂室
- 4◆ 皇學館の来歴
- 1-4◆ デキゴトロジー

退任によせて

平成二十四年度末で退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

神道の研究、神職養成に携わって

文学部教授 井後 政晏



私は本年三月末を持ちまして昭和六十二年から二十六年間にわたって勤めた本学を退職いたします。

私は神社史を主体として神道史の分野を専攻していましたが、神道についての数少ない研究機関として神道研究所の仕事に研究者として、また所長職として携わることができましたこと大変光栄なことでありました。

また所属する神道学科では、四年次の学生に卒業論文が課せ

学生の成長に喜び

社会福祉学部教授 宮城 洋一郎



平成九年四月に本学に奉職して以来、十有余年が経過しました。この間に賜った皆様方の芳情に謹んで感謝申し上げます。社会福祉学部の創設に関わり、名張学舎で学生の皆さん、教職員の方々とさまざまな交流を持ってこられたことなにより宝となっておりま。

また、伊勢学舎集約にさいしては皆様方に温かく迎えていただきま。さらに、中国社会科学院日本研究所での学術交流、出版助成を頂くなど、身に

られました。文科系の大学では古来論文を書くことは特に重視され、本学もその流れを継承するもので、学生自らが自分が選んだ題目で、自らの力で立派に書き上げることは、最終学年の締めくくりとして、この上ない大事なことで考えます。また神社奉職の相談・指導にあたってきましたが、これらを通して、学生に身近に接し、忘れがたい思い出が残っています。

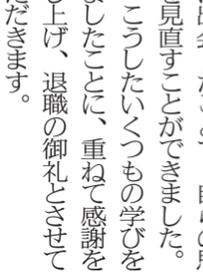
また長く神職養成委員長を務める中で、神社本庁にも上京して会議・打合せを行って参りました。本学は斯界の要請にこたえ、高等神職養成という重要な役割

を担っております。在任中、講習会を始めたことや明階課程の開始とその後の制度の見直しなど対応すべき問題も少なからずありましたが、多くの教職員の

余る光栄を賜りました。ここに深甚の謝意を申し上げます。振り返ってみますと、本学部教育の特色である実習に関して強く印象に残っております。日々の積み上げによって成長していく実習生の姿は、教師として最も喜びを感じた時でもありません。そして、卒業研究では修正を重ねながら問題点をつかんでいく過程を共に確かめたことなどで、専門教育の深さに触れることができました。

倉田山での歳月

文学部教授 半田 美永



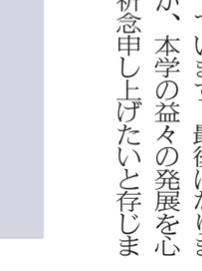
『全学一体』第四十七号昭和五十九年七月)に「出会いと別れ、別れと出会い」を書かせていただいたから、およそ三十年が経ちました。皇學館大学専任講師として赴任した時に、求められてしるしたものです。顧み

す。しかし、本学で一流の先生方の研究を学び、第二級の教育に出会ったことで、自らの思いを見直すことができました。こうしたいくつもの学びを得ましたことに、重ねて感謝を申し上げます。退職の御礼とさせていただきます。

期待と不安の中、皇學館大学の門をくぐったのが昨日のように思われます。創立百三十周年、再興五十周年を迎え大学が大きく発展し、学生たちの学びの環

支えられての十五年間

社会福祉学部教授 山上 賢一



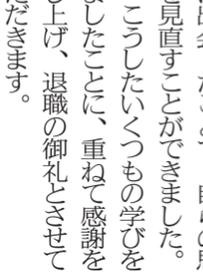
皆様に支えられて、楽しく勤めさせて頂きました。今後も、研究・執筆活動をベースにして、一日一日を大切に生きていきたいと思。最後になりますが、教職員の皆様のご健康と本学のご発展を願っています。十五年間、誠にありがとうございました。

十五年間、社会福祉学部ともどもお世話になりました。名張・伊勢両学舎ともに恵まれた自然環境のもとで、真面目で勉強熱心な学生、優秀で学生思いの教職員の

わってきたことも大変意義深いことでありました。私は今後、地元神社の神職に専念する所存ではありますが、従来の研究を活かしながら神社史の編纂にも力を注いで参りたいと思っております。最後になりましたが、本学の益々の発展を心より祈念申し上げたいと存じます。人々と共にこの重要な事柄に携

恵まれた学びの環境に感謝

教育学部助手 藤村 京子



境がとても恵まれたものになったこの機に勤められたことに感謝しています。自然豊かな環境の下、子育て支援「ひよこぴよこ」の取り組みは、地域の子どもたちや保護者のにぎやかな声が保育実習室に響き、学生たちが様々な活動を企画し実践しながら保育者と

しての資質を育むことができたのではないかと思います。人間の根っこを育てるのが保育です。これからのみなさんのアンテナを張り巡らし、失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていくって欲しいと思います。未来の保育界を担う人材になってくれることを期待しています。三年間ありがとうございました。

な気がしています。出会いはいつも新鮮であり、別れを哀しむ余裕はありません。今、日々の研鑽と蓄積の中から、正しい全人教育の成果としてのグローバル人材が、この倉田山から輩出されますのを念じております。一方で「ひとり燈火のもとに文をひろげて」(徒然草、三段)という兼好法師の心境が妙に懐かしく思われます。自らを深めること、他者を敬することを教えていただいた皇學館大学でのかけがえのない歳月。感謝の念で一杯です。

デキゴトロジー

大 学

- 4月 4日 ● 入学式
- 共催講座(神道と仏教「吉野における神仏習合と神仏分離」)
- 河野訓(文学部教授)
- 共催講座(文学部教授)
- 春学期通常講義開始
- 共催講座(古事記を読む「天若日子命の反逆」)
- 白山芳太郎(文学部教授)
- 月例神宮参拝
- 創立百三十周年・再興五十周年記念行事
- 特別展(神社名宝展「参り・祈り・奉る」開催)5月26日
- 創立百三十周年・再興五十周年記念式典・祝賀会
- 5月 30日 ● 参拝見学
- 月例文化講座(日本人はなぜ英語が苦手なのか)豊住誠(文学部教授)
- 共催講座(古事記を読む「建御雷命の派遣」)
- 白山芳太郎(文学部教授)
- 専の会総会
- 月例神宮参拝
- 月例神宮参拝
- 特別展記念講演(神々と神社宝物の精華)
- 岡田芳幸(佐川記念神道博物館学芸員・精養軒)
- 共催講座(特別公開講座「万葉人の信仰」)
- 本澤雅史(文学部教授)
- 第16回現代日本塾(三)に生きる「三」を生きて
- 岡本栄一(社会福祉法人大阪ボランティア協会顧問)
- 6月 9日 ● 共催講座(古事記を読む「建御名方命」)
- 白山芳太郎(文学部教授)
- 月例文化講座(ケイタイ文化とつながり確認のことは)前田至剛(文学部講師)
- 第17回「現代日本塾(地域も大学も元気に)」まちづくりへの学生参加
- 片寄俊秀(大阪人間科学大学教授)
- 共催講座(特別公開講座「万葉人の信仰」)
- 本澤雅史(文学部教授)
- 月例神宮参拝
- 古文書講座(古文書を読む「(中世)岡野友彦(文学部教授)
- 共催講座(神道と仏教「伊勢の外宮と仏教」)
- 河野訓(文学部教授)
- 神道博物館教養講座(伊勢の神宮を語る「伊勢の神宮と日本人」)
- 伴五十嗣郎(本学特別教授・名誉教授)
- 7月 30日 ● 寮祭
- 避難訓練
- 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座(日本人の精神文化伝統をいかに継承するか)田尾憲男(鉄道情報システム常勤助産師・本学客員教授・憲法・皇室法研究家)
- 人文学会大会
- 月例文化講座(英語はどこからきたのか?ー英語の起源をさぐるー)
- 児玉玲子(文学部教授)
- 共催講座(古事記を読む「三三三三三」)
- 白山芳太郎(文学部教授)
- 第2回「現代日本塾(障がいのある人と共に生きるー施設と地域の新たな関係を目指して)」
- 片山宣博(社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団事務局長兼企画推進部部長)
- 共催講座(神道と仏教「伊勢の内宮と仏教」)
- 河野訓(文学部教授)
- みえアカデミックセミナー2012(健康維持とこころの維持ー体育学、心理学からできること)ー叶俊文(教育学部教授)
- みえアカデミックセミナー2012
- (これからの保育、社会にとって大切なこと)榎垣博子(教育学部教授)
- ふるさと講座(名張と自然災害「名張川の恵みと氾濫」その歴史的影響)清水潔(本学学長)
- 夏休み親子教室(まがたまを作ろう)
- 共催講座(特別公開講座「伊勢の斎王と斎宮」)
- 岡田登(文学部教授)
- 古文書講座(古文書を読む「(中世)岡野友彦(文学部教授)
- 夏休み親子教室(まがたまを作ろう)
- 「皇學館」一開催
- 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座(皇室に学ぶ「徳育」)
- 所功(京都産業大学名誉教授・モロロジー研究所教授)本学特別招聘教授
- 春学期通常講義終了
- 8月 30日 ● 英国短期留学(セント大学)30日
- 共催講座(神道と仏教「高野山における神仏関係」)
- 河野訓(文学部教授)
- 共催講座(古事記を読む「猿女氏命のいわれ」)
- 白山芳太郎(文学部教授)
- 神職養成講習会(9月25日)
- 共催講座(特別公開講座「日本書紀の神話」)
- 大島信生(文学部准教授)
- 第3回オープンキャンパス
- 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 25日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 19日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 18日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 17日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 11日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 4日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)
- 3日 ● 共催講座(特別公開講座「古事記伝兵衛」の立場ー浪速の作家上田秋成の論敵)高倉一紀(文学部教授)

平成24年度 皇學館大学出版部 新刊書籍のご案内

平成24年度に出版された新刊本のご紹介です。価格は税込み。

下記へ、お電話またはFAXにてご連絡下さい。
TEL・FAX 0596-22-6320 皇學館大学出版部

- 書名・冊数・住所・氏名・電話番号をお知らせ下さい。
- お支払いは郵便振込にてお願いします。
- 別途送料をご負担いただきますのでご了承下さい。

続日本紀史料 第16巻 第17巻

史料編纂所編
第16巻 A5判 788頁 定価14700円
第17巻 A5判 497頁 定価10500円

「続日本紀」を基礎として、その所収年代の政治経済文化等に関する史料を配列した編年史料。

図録 香川敬三関係史料の世界

上野秀治著 史料編纂所編
A4判 302頁 定価7500円

香川敬三(1839~1915)は茨城県出身の勤王の志士。維新後は兵部省・宮内省に勤務。皇后宮大夫として33年間昭憲皇太后に側近奉仕した人物で、伯爵に昇った。本書は主に香川敬三宛の大臣(三

教育社会学—現代日本社会を生きた子どもたちのために—

藤井恭子著 A5判 63頁 定価500円

条・岩倉・熾仁親王・参議経験者・皇族・宮内省関係者・徳川慶喜らの書簡80点を写真掲載・釈文と解説を付した。明治宮内省の様子を見る上で貴重な史料集であるとともに、くずし字解説のテキストとしても役立つ。

社会福祉教育論(増補版)

山上賢一著 A5判 139頁 定価10500円

「福祉教育」で社会と教育の再生を図るべく、小・中学校における福祉教育の望ましいあり方を考察する。

蒲生君平の「山陵志」撰述の意義—「前方後円墳」の名付け親の山陵研究の実態—

阿部邦男著 A5判 820頁(参考史料含む) 定価52500円

歴代天皇陵の所在地を比定した「山陵志」の著者として知られる蒲生君平。本書ではその撰述の影響や江戸時代の山陵研究、山陵補修事業の全体像までもを対象とし、宇都宮藩が幕末に天皇陵修復を完成させたことが明治維新の理念的根拠になったと論を展開する。

文化の深化と地域の革新

宮川泰夫著 A5判 792頁 定価38900円

文化の深化と地域革新との関連を究明し、神都・伊勢にその本源を捉えた一冊。

講演叢書 130~148 各B6判

講演叢書130 建学の精神について	伴五十嗣郎 著 定価500円
講演叢書131 伊藤若冲との出会い	ジョー・プライス 著 定価10500円(DVD付)
講演叢書132 森鷗外の独逸体験と東洋 森鷗外の德国体験と東洋	半田美永 著 定価500円
講演叢書133 俊乗房重源の参宮	多田實道 著 定価500円
講演叢書134 日本人の「主体」性	菅野覚明 著 定価500円
講演叢書135-142 伊勢の神宮と式年遷宮	国史学科 著 定価2100円
講演叢書143 江戸川乱歩と名張	三品理絵 著 定価500円
講演叢書144 泉鏡花の文学と伊勢	三品理絵 著 定価500円
講演叢書145 子どもの育ちと遊び	田口鉄久 著 定価500円
講演叢書146 西洋音楽黎明期における子どもの歌	錦かよ子 著 定価500円
講演叢書147 子ども観の変遷	野々垣明子 著 定価500円
講演叢書148 版画の話	加藤茂外次 著 定価500円

谷省吾先生 御遺詠 「春を呼ぶ」 刊行のご案内

費用1500円(送料込)

申込先 皇學館大学出版部 ☎0596-22-6320
お支払につきましては、歌集とともに振込用紙を同封致しますので、お近くの郵便局からお振込み願います。

皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年 記念学術研究事業 「神宮研究」着々と成果

平成二十四年に迎えた創立百三十周年・再興五十周年の佳節に向け進められてきた記念学術研究事業。本学の発祥の歴史はもとより精神的、学問的にも関りの深い「神宮」の総合的研究を中心に推進され、昨年度から今年三月にかけて学術書四冊を刊行した。なお、同事業は今後も継続して進められる。

平成二十四年度表彰一覧

第四十八回三重県私学大会表彰

十月六日(土)午後二時より三重県総合文化センター(男女共同参画センター)「多目的ホール」で開催された三重県私学大会に於いて、私立学校教育振興のため、永年尽力された功績者、保護者および優良生徒が表彰された。なお、本学関係者は次のとおりである。

◆永年勤続者

満四十年 西井 栄治
満三十年 錦 かよ子
満二十年 筒井 琢磨 榎垣 博子 齋藤 平
小瀬古 学 木村 知佳 安井 浩子
尾上誠一郎

◆保護者

中村 佳子氏(皇學館中学校保護者会副会長)
津谷 剛氏(皇學館高等学校保護者会会長)
太地 哲成氏(皇學館高等学校保護者会副会長)

◆優良生徒

金子 結香(皇學館中学校三年)
矢野 翔大(皇學館高等学校三年)
江川 真林(皇學館高等学校三年)

◆労働基準協会優良勤労者表彰

十一月十六日(金)午後一時三十分より伊勢市生涯学習センターで開催された、平成二十四年度伊勢地方産業安全衛生大会・優良勤労者表彰式に於いて、学生支援部教職支援担当課長の松野高士さん・企画部広報担当課長の堀川幸寛さんの二名が、永年にわたり誠実勤勉に勤務したことに対し、表彰された。

1 神宮の総合的研究 [非売品]
①「神宮と日本文化」論文集 [非売品]
②「大神宮故事類纂総目録」 [非売品]
③「伊勢神宮研究文献目録」 [販売品]

2 福祉と地域連携に関する総合的研究 [非売品]
④「地域・福祉・文化」 [非売品]

3 儀式・神宮・大嘗祭の研究
●「訓読・註釈 儀式・神宮・大嘗祭」 [販売品]
●「神宮と日本文化」論文集 [非売品]
●「大神宮故事類纂総目録」 [非売品]
●「伊勢神宮研究文献目録」 [販売品]

4 皇學館大学百三十年史刊行
●「皇學館大学百三十年史」 [販売品]
●「皇學館大学百三十年史」 [販売品]

5 皇學館大学百三十年史刊行
●「皇學館大学百三十年史」 [販売品]
●「皇學館大学百三十年史」 [販売品]

26日	史料編纂所第二十回公開講座(日本書紀・古事記の世界③)「任那」をたずねて」遠藤慶太(史料編纂所准教授)
25日	「II 神功皇后紀と好太王碑文」 荻木美行(史料編纂所教授)
24日	「III 三重の采女と伊勢の大鹿氏」 岡田登(文学部教授、史料編纂所長、館友会全国大会)
23日	AO入試(神職)
22日	AO入試後継者選考(一般選考)
21日	尊の会地区別教育懇談会(神戸・伊勢名張)
20日	尊の会地区別教育懇談会(浜松・四日市)
19日	共催講座(特別公開講座)伊勢の大神宮と式年遷宮(岡田登(文学部教授) 池田久代(文学部教授))
18日	池田久代(文学部教授)
17日	共催講座(古事記を読む「海幸彦・山幸彦」) 白山芳太郎(文学部教授)
16日	尊の会地区別教育懇談会(福岡・名古屋)
15日	尊の会地区別教育懇談会(京都・津)
14日	大学院秋学期入試
13日	専攻科入試(次募集)
12日	文学部・現代日本社会学部研究旅行(17日)
11日	神学関係者懇談会・協議会
10日	大学院入試(文学研究科内推薦・一次)
9日	9月学位記授与式・秋学期入学式
8日	古事記撰上千年三百年記念行事
7日	共催講座(神道と仏教「北野天満宮における神仏習合と神仏分離」) 河野訓(文学部教授)
6日	AO入試(強化指定「柔道・スポーツ」)
5日	秋学期通常講義開始
4日	創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座(世界情勢と日本の課題) 葛西敬之(東海旅客鉄道株式会社代表取締役会長、本学客員教授)
3日	古文書講座(古文書を読む「近世」) 上野秀治(文学部教授)
2日	第19回 現代日本塾(新渡戸稲造の精神—インテリナショナル・インテリナリ—) 草原克家(拓殖大学名誉教授)
1日	共催講座(特別公開講座「源頼朝と北条政子は夫婦別姓?」) 岡野友彦(文学部教授)
31日	第20回 現代日本塾(東日本大震災で考えたこと) 青山俊樹(元国土交通事務次官、平成25年4月本学特別招聘教授就任予定)
30日	月例文化講座(アホ・バカ分布と日本文化) 外山秀(文学部教授)
29日	共催講座(古事記を読む「第1代神武天皇」) 白山芳太郎(文学部教授)
28日	大学院入試(教育学研究科内推薦・一次)
27日	初穂刈(伊勢学) 履修者参加)
26日	神宮祭(伊勢学) 履修者参加)
25日	古文書講座(古文書を読む「近世」) 上野秀治(文学部教授)
24日	第21回 現代日本塾(マテラス大御神と日本人の心)
23日	古文書講座(学問) 皇學館大学名誉教授)
22日	神道博物館教養講座(伊勢の神宮を語る)「伊勢神宮の創始と式年遷宮の展開」 渡辺寛(皇學館史編纂室長、名誉教授)
21日	共催講座(神道と仏教「石清水八幡宮における神仏習合と神仏分離」) 河野訓(文学部教授)
20日	共催講座(特別公開講座「神道の作法」) 伝統の心と技(1) 本澤雅史(文学部教授)
19日	第13回 高校生英語スピーチコンテスト
18日	倉慶祭(4日)
17日	博物館学芸員課程卒業展示開催(24日)
16日	山山山参拝
15日	共催講座(特別公開講座「神道の作法」) 伝統の心と技(2) 本澤雅史(文学部教授)
14日	推薦入試(一般・館友・資格)
13日	推薦入試(指定校・一般・附属・資格)
12日	創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座(古事記の世界) 菅野覚明(東京大学大学院人文社会系研究科教授、本学客員教授)
11日	月例神宮参拝
10日	古文書講座(古文書を読む「近代」) 谷口裕信(文学部准教授)
9日	月例文化講座(ことばと文化の諸相) 山田やす子(文学部教授)
8日	共催講座(古事記を読む「第1代神武天皇」) 白山芳太郎(文学部教授)
7日	共催講座(神道と仏教「八坂神社における神道と仏教」) 河野訓(文学部教授)
6日	共催講座(神道と仏教「八坂神社における神道と仏教」) 河野訓(文学部教授)
5日	第2回 経営戦略セミナー(東海旅客鉄道株式会代表取締役会長、本学客員教授) 葛西敬之(東海旅客鉄道株式会代表取締役会長、本学客員教授)
4日	共催講座(特別公開講座「神社に伝わる道教文献」) 松下道信(文学部講師)
3日	第22回 現代日本塾(輝いてこそ、華—国際日本と私学教育—)
2日	納谷廣美(明治大学事務局、前学長、大学基準協会会長、日本私立大学連盟副会長)
1日	月例文化講座(中国の茶文化について) 張磊(文学部教授)
31日	共催講座(古事記を読む「第1代神武天皇」) 白山芳太郎(文学部教授)
30日	AO入試(強化指定「駅伝」)
29日	推薦入試(特定期)
28日	推薦入試(特定期)
27日	推薦入試(特定期)
26日	推薦入試(特定期)
25日	推薦入試(特定期)
24日	推薦入試(特定期)
23日	推薦入試(特定期)
22日	推薦入試(特定期)
21日	推薦入試(特定期)
20日	推薦入試(特定期)
19日	推薦入試(特定期)
18日	推薦入試(特定期)
17日	推薦入試(特定期)
16日	推薦入試(特定期)
15日	推薦入試(特定期)
14日	推薦入試(特定期)
13日	推薦入試(特定期)
12日	推薦入試(特定期)
11日	推薦入試(特定期)
10日	推薦入試(特定期)
9日	推薦入試(特定期)
8日	推薦入試(特定期)
7日	推薦入試(特定期)
6日	推薦入試(特定期)
5日	推薦入試(特定期)
4日	推薦入試(特定期)
3日	推薦入試(特定期)
2日	推薦入試(特定期)
1日	推薦入試(特定期)

附置研トピックス

地域の知の拠点である各附置研究機関における平成二十四年度の活動を報告します

神道研究所

注釈の重要性語る―公開学術講演会を開催

皇學館大学神道研究所(所長 白山芳太郎教授)主催の公開学術講演会が、平成二十四年(二〇二二)十一月二十八日(水)、本学四号館四三二教室で開催され、約六十人が参加した。

今回の講演会では、國學院大學神道文化学部教授の風義人氏が「神祇令關係注釋書と明法家」と題して講演された。

風氏は、日本の注釈史は聖徳太子の『三経義疏』より始まり、

学術交流・研究を深化

公開学術シンポジウムを開催

皇學館大学神道研究所主催の公開学術シンポジウム「北畠親房をめぐる諸問題」が、平成二十四年(二〇二二)十二月二十二日(土)、本学佐川記念神道博物館講義室で開催され、約四十人が

参加した。

今回のシンポジウムは、本所第三部門の担当で、国文学・国史学・日本思想史の諸領域から、北畠親房に関する研究蓄積と最新の研究状況について、それぞれ

の立場から相互に情報を共有し、それぞれの問題意識がさらに深化する契機とすることが趣旨である。当日の発題者は以下の通りである。

坂口太郎氏(京都大学大学院生)「北畠親房と真言密教―大覚寺統の密教興隆との関係を中心―」、下川玲子氏(愛知学院大学教授)「北畠親房の儒学」、勢田道生氏(大阪大学大学院助教)

「近世における北畠親房像の展開」、コメント 岡野友彦氏(本学教授、深津陸夫氏(本学教授・本所兼任所員)、企画・司会・コメント 白山芳太郎氏(本学教授・神道研究所所長)。

発題後の質疑応答は極めて活発で、全国から集まった研究者を交えて積極的な討議が行われた。本シンポジウムの内容は、『皇學館大学神道研究所紀要』第三十輯(平成二十六年三月刊行)に収められる。

好評の公開講座は「日本書紀・古事記の世界」を共通テーマに、左記の講師が講演を行った。

●遠藤慶太「任那」をたずねて―『日本書紀』と東アジア―

●荊木美行「神功皇后紀と好太王碑」

●岡田登「三重の采女と伊勢大鹿氏」

【日程】平成二十四年八月二十六日【場所】皇學館大学二号館三四教室 計56名受講

史料編纂所

史料の刊行

平成二十四年度は、第一部門(六国史編年史料)の事業として『続日本紀史料』第十六巻(宝龜元年十月―同四年是歳・同第十卷(宝龜五年正月―同八年是歳)の二冊を刊行した。

第三部門(明治史料)は「図録・香川敬三関係史料の世界」を刊行した(いずれも皇學館大学出版部より)。

好評の公開講座は「日本書紀・古事記の世界」を共通テーマに、左記の講師が講演を行った。

●遠藤慶太「任那」をたずねて―『日本書紀』と東アジア―

●荊木美行「神功皇后紀と好太王碑」

●岡田登「三重の采女と伊勢大鹿氏」

【日程】平成二十四年八月二十六日【場所】皇學館大学二号館三四教室 計56名受講



講座風景
上/「神功皇后紀と好太王碑」(平成9年)
下/「正倉院文書」(平成9年)

「古文書を読もう」の開催

中世文書を読む

安楽寿院壁書・滝川一益書状
岡野友彦氏(研究嘱託・本学教授)
【日程】平成二十四年六月二十三日・七月二十八日【場所】皇學館大学七号館七二教室 計43名受講

近世文書を読む

小笠原長義滞府願
上野秀治先生(所員・本学教授)
【日程】平成二十四年九月二十九日・十月二十日【場所】皇學館大学二号館二一教室 計37名受講

近代文書を読む

近代の伊勢地域と御師/伊藤博文書簡からみる明治国家
谷口裕信先生(所員・本学教授)
田浦雅徳先生(所員・本学教授)
【日程】平成二十四年十一月十七日・十二月十五日【場所】皇學館大学七号館七二教室 計33名受講

館史編纂室

「皇學館大学三百年史」の刊行

平成二十四年四月に本学園が創立三百年・再興五十周年を迎えるにあたり、かねてより編纂を進めていた『皇學館大学三百年史』(全六巻)の一冊目となる「総説篇」(A5判・上製 函入、総一〇八四頁)を、四月三十日の式典にあわせて刊行した。

本書は、式典出席者並に周年事業に多大の協賛をいただいた神宮神社及び館友篤志の方々に記念品として差し上げた他、都道府県神社庁、国立国会図書館以下都道府県立図書館および政令指定都市・三重県内の市立図書館、他大学および研究機関、学内の全教職員に謹呈した。

また、今年度中に二冊目となる「資料篇一」(A5判・上製 函入、総一一九二頁)、来年度には「資料篇二」・「資料篇三」

「年表写真篇」「各説篇」を刊行し、平成二十五年度中に全六巻完結の予定。

なお、「総説篇」には若干の残部があり、ご希望の方には実費(千五百円+送料)にて頒布する。入手を希望される方は、皇學館大学出版部までお申し込みください。

皇學館大学出版部
TEL 0596-22-6330
FAX 0596-22-7704
syuppanbu@kogakkan-u.ac.jp

資料展の開催

平成二十四年四月二十九日・三十日の両日、記念館において、創立三百年・再興五十周年記念展示「神宮皇學館 神宮皇學館大学・皇學館大学の軌跡―明治十五年―平成二十四年―」を開催した。二百点あまりの資料を展示、およそ百五十名の方にご来場いただいた。

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
●創立三百年・再興五十周年記念特別講座(日本の再生) ●藤原正彦(数学者・作家、お茶の水女子大学名誉教授、本学客員教授) ●古文書講座(古文書を読もう!)(近代) 田浦雅徳(文学部教授) ●共催講座 特別公開講座「聖徳太子と公務員」 新田均(現代日本社会学部教授) ●月例神宮参拝 ●特別講義 東儀秀樹(雅楽師・本学特別招聘教授) ●共催講座(神道と仏教) 松尾大社における神仏習合と神仏分離) ●河野訓(文学部教授) ●秋学期通常講義閉講 ●三重県立博物館館長 齋藤 結	●秋学期通常講義再開 ●学長年頭講話・学内成人式 ●共催講座(古事記を読む) 第2代綏靖天皇) 白山芳太郎(文学部教授) ●月例神宮参拝 ●「伊勢子」市長トークinキャンパス ●大学入試センター試験 20日 ●共催講座(神道と仏教) 那智における神道と仏教) 河野訓(文学部教授) ●一般前期入試 31日	●共催講座(特別公開講座(会津の藩風と神道) 松本丘(文学部准教授) ●秋学期通常講義終了 ●第6回立志塾(国際化と日本文化) 田尾憲男(鉄道情報システム常務監査役、本学客員教授、憲法・皇室法研究者、ヒーター・ゴールズベリ(広島大学名誉教授) ●特別講義 東儀秀樹(雅楽師・本学特別招聘教授) ●共催講座(古事記を読む) 第3代安寧天皇(第4代懿徳天皇) ●白山芳太郎(文学部教授) ●建国記念の日(神宮参拝) ●専攻科入試(二次募集) ●三重県社会福祉協議会連携調印式 ●共催講座(皇學館大学ヒストリーコンテスト公開プレゼンテーション大会) ●共催講座(神道と仏教) 太宰府天満宮における神仏習合と神仏分離) ●河野訓(文学部教授) ●社会福祉学部「フック」イベント開催 ●神職養成講習会 3月25日 ●伊勢市との環境ミーティング(教育学部 中松豊(セシ)) ●教育学部卒業記念「ミュージカル」ヒーター・ゴールズベリとフック船長)津公演 ●ふるさと講座(名張と万葉集) 大島信生(文学部教授) ●共催講座(特別公開講座)古文書を読もう! 岡野友彦(文学部教授) ●一般後期入試	●大学院入試(後期二次) ●教育学部卒業記念「ミュージカル」ヒーター・ゴールズベリとフック船長)伊勢公演 3日 ●教育学部研究旅行 8日 ●共催講座(古事記を読む) 第5代孝昭天皇(第8代孝元天皇) ●白山芳太郎(文学部教授) ●推薦入試(館友後期) ●共催講座(特別公開講座)古文書を読もう! 岡野友彦(文学部教授) ●学位記修了証授与式(卒業式) ●共催講座(蔵島神社における神仏習合と神仏分離) 河野訓(文学部教授) ●明和町連携調印式	●始業式 ●入学式 ●対面式 ●オリエンテーション 13日 ●身体測定 ●遠足 ●創立記念日	●始業式 ●入学式 ●対面式 ●1年生オリエンテーション 12日 ●3年生全国学力調査 ●第1回実力テスト(ヘネッセ) ●新入生歓迎スポーツ大会 ●創立記念日	●保護者会・後援会総会 ●講演会・懇親会 ●中間考査 19日 ●3年保護者進学説明会、 ●校友会総会 ●県総体 27日 ●教育実習	●フィードバック ●保護者会・後援会総会 ●3年生授業参観 ●2年生授業参観 ●1年生授業参観 ●校友会総会 ●春季総体屋内 20日 ●春季総体屋外 27日

神道博物館

特別展覧会を開催

平成二十四年度は、本学の創立百三十年・再興五十周年を記念して四月二十九日より五月二十六日まで、「神社名宝展―参り・祈り・奉る―」と銘打ち、特別展覧会を開催した。

▼詳細は、皇學館学園報第三十八号 平成二十四年六月一日発行参照。

教養講座を実施

平成二十四年度は、平成二十五年の神宮式年遷宮に伴い、「伊勢の神宮を語る―日本文化の源流を考える―」のテーマのもと(但し、五月十九日のみ「神社名宝展―参り・祈り・奉る―」

平成25年度の予定

今年度について、教養講座はテーマを、昨年度に引き続き「伊勢の神宮を語る II―日本文化の源流を考える―」とし、下記の日程で開催する。夏休み親子教室も7月・8月に開催予定。

教養講座

各回午後2時~4時、定員80名

第1回 5月25日(土)
「美し国の悠久の祈り」
講師 清水 潔先生 本学学長・教授

第2回 6月29日(土)
「悠久の伊勢神宮」
講師 荊木美行先生 本学教授

第3回 10月26日(土)
「旅にみるお伊勢参り」
講師 岡田 登先生 本学教授

第4回 11月30日(土)
「御装束神宝と文様の美」
講師 岡田芳幸先生 本館学芸員・教授

【問合せ・申込み】
皇學館大学 佐川記念神道博物館
TEL 0596-22-6471

親子でまがたま作り

夏休み親子教室

神宮徴古館農業館と共催で体験学習「まがたまを作ろう」を平成二十四年七月二十五日(水)、二十八日(土)の二回、神宮徴古館及びせんげん館を会場に開催。▼詳細は、皇學館学園報第四十号(平成二十四年十月二十五日発行)参照。

第一回 六月三十日(日)
「伊勢の神宮と日本人」
講師 伴 五十嗣郎先生
本学特別教授・名誉教授

第二回 十月二十七日(日)
「伊勢神宮の創祀と式年遷宮の展開」
講師 渡辺 寛先生
本学館史編纂室長・名誉教授

第三回 十一月二十四日(日)
「神宮式年遷宮の歴史」
講師 井後政晏先生
本学教授

皇學館の 来歴 17 昭和七年、創立五十周年

皇學館大学名誉教授・皇學館館史編纂室長 渡辺 寛

皇学の府として 研究と教育の成果を 世に弘める

昭和七年(一九三二)、本館は創立五十周年を迎え五月一日より三日に亘り、神宮祭主久邇宮多嘉王殿下御台臨のもと、その記念式典並に諸行事が挙行された。

式典では館長式辞に続いて多嘉王殿下から

神宮皇學館創立以来茲二五十年ヲ迎フ其間第二皇國ノ文学道義ヲ闡明發揚シ世道風教ニ裨益スル所蓋シ尠シナラスト謂フ可シ然ルニ晩近理智偏重ノ文化進展スルニ伴ヒ我力國体民風ト相容レサル異端邪說蔓延シ思潮ノ趨勢甚々憂フ可キモノアリ

本館ノ職員及学生生徒深ク現下ノ国情ニ鑑ミ篤ク本館教育ノ旨趣ヲ体シ夙夜勉勵愈固體ノ闡明ト皇道ノ發揚トニ力ムルト共ニ特ニ敬神崇祖ノ精神ヲ涵養実践シ以テ世道民風ノ作興ニ努力セントス期セヨ

昭和七年五月一日
という旨旨が下賜され、三條西神宮大宮司之を受け奉読した上、平田館長に伝えられた。館長謹んで拝受し「旨旨に心へ奉らんことを期す」ことを奉答した。以下内務大臣告辞、来賓祝辞、表彰式等が続くが、特に館歌の制定がその合唱を以て発表された。

一、現御神高知らず國は天津日繼神こそ護らせ遠つ祖の雄心つたへて今も人の神習ふ國ぞ伊勢の海に底沈く珠は潜く海士の手にくそ
二、映えすれ山路行けば次ぞ多かる心利鎌忘しな我は神路山ゆ風起るあした胸にいだく神祕の悸き
三、五十鈴川を夕にのぞめば月に浮ぶ悠遠のおもひ
四、日本男子言挙げすこに君の御威威仰げばかしし祖の御名を思へばたふとし國に道に勤めてむいざや

また『神宮皇學館五十年史』が刊行され出席者に配布された。A5判・函入・総三百十頁で神宮皇學館平面図と神宮皇學館敷地図(館町時代)が付けられている。鈴木友吉教授が編集の中心となつての館史であり、本館にとってははじめての来歴を叙述した労作であった。

また五月一日〜三日、大規模な神道資料展が開催され、一千二百余点の神道資料(書籍・自筆本・写本・木版本・巻物・絵画・刷物・錦絵・版木等)が、一両部習合神道 二伊勢神道 三忌部神道 四吉田神道 五垂加神道 六儒家神道 七鳥伝神道 八復古神道 九大教院資料 十神宮教院資料 十一宗派神道 十二参考資料 の十二項に分類され、系統的に配列陳列するものであった。神宮文庫蔵品のみならず各地の文庫からの出陳が多く、はじめて公開される新資料も少なくなつた。のち詳細な目録『神道資料展覧会目録』A5判・六十四頁、昭和七年七月刊にも編纂され、以後の神道研究に大きな刺激を与えた展覧会であった。また同時に国学者の短冊展覧会もあり各地から千有余点の逸品珍品が出品された。

また記念式典祝賀会等とは別に卒業生の集り、館友大会もその終了後に開催された。全国各地、樺太朝鮮台湾からも出席があり母館創立五十周年を祝い後援し、種々の事業の決議がなされた。その中でも、次の三点は母館発展の有力な基盤となつた。

一、館友会館の建設と母館への寄贈。大正中葉、神宮皇學館の本拠が宇治館町から倉田山に移転したことはすでに述べたが(本誌第一五五号、皇學館の来歴13―宇治から倉田山へ)、それに伴つて神宮の所管する神宮文庫も倉田山に移転新築され、明治末年に建てられた宇治館町の旧神宮文庫は空になつていった。その建物一切を神宮皇學館館友会が神宮より無償譲与を受け、それを神宮皇學館校地に隣接する倉田山の神宮付属地に移築し館友会館を建設したのは昭和六年十月のことであつた。母館創立五十周年を奉祝してこの館友会所有の会館を母館に寄贈した。

二、館友会に神社調査部を設立。神宮皇學館館友会の組織の一として神社に関する調査研究を目的とする研究室を設置し、専任の調査委員若干名を置き、神社研究を推進した。その費用は全て館友会が負担し、その活動の拠点が先の館友会館であつた。

三、学術雑誌『皇學』の創刊。神宮皇學館では、昭和七年の時点で、神宮皇學館史学会の『史学会会報』、神宮皇學館神道学会の『神路』、教官中心で研究室発行の『勢陽論叢』等の学術雑誌があつたが(いずれも年一回刊行)、神宮皇學館の学問的営為をより広く発信せんことを期して年四回季刊の学術雑誌(神道・国史・国文・国語・漢文・法制)を神宮皇學館館友会の名において創刊、そしてその誌名は『皇學』とした。昭和七年十一月の第一



館友会館(現在の佐川記念神道博物館のある地にあつた)

巻第一号(創刊号)の目次は
吉川神道に於ける国常立尊 土田 誠一
後南朝について 鈴木 友吉
平家物語序説、上 後藤 丹治
和漢詩想の交渉、上 早川 祐吉
日本神典の再認識 宇佐美景堂
理想主義と靈魂の觀念 田中治吾平
旧尾張徳川家所蔵駿河御讓本と金澤本 若山善三郎
遊燕漫録 近藤 奎
国学者分布表とその解説 小山 正
和歌の徳に就いて 前野 孝治
村山本良寛歌集について 有松 雄雄
日本文学に現れたる月 西岡 末雄
国史教育の動向 上田 光夫
歴史教育に於ける意志陶冶 宮脇 信敬
彙報(神宮消息・学内消息・三重県下消息)